

学長インタビュー

石川百代学長 × Liss

第3回

2016年4月から嘉悦大学の学長に就任された石川百代氏に、図書館学生スタッフ・Lissが石川学長の学生時代から社長時代、嘉悦生へのメッセージなど様々なことをインタビューさせていただきました！全3回にわたるインタビューの最終回は、日本ジュース・ターミナル株式会社に在職中のお話です。

インタビューア：田邊航平 / 記事作成：坂本翔 / 撮影：小島明美

嘉悦大学の学長に就任する前は、濃縮オレンジジュースを取り扱う日本ジュース・ターミナル株式会社(愛知県豊橋市)の社長として手腕を振っていた石川学長。日本のオレンジジュースの半分以上を賄う企業の社長になった経緯に迫ります。

会計士、転職、そして社長へ……

学生 以前は日本ジュース・ターミナル株式会社の社長をされていたと伺ったのですが、どういった経緯で社長に就任されたのでしょうか？

石川学長 日本ジュース・ターミナルに入社したのが23年前、社長になったのは15年くらい前です。入社するまでの経緯からお話すると、まず嘉悦(短大)で簿記会計を学んで、日商簿記2級と全経簿記1級を取りました。アメリカに行ってからは、大学の経済学部を卒業して、その後MBA(経営学修士)を取ったの。MBAではアカウントティングとファイナンスという科目を取るんだけど、その授業を取ったとき、案外簡単にスラスラできたの。やっぱり嘉悦での勉強が役に立ちましたね。その後転職するときに、何が私の強みかなって考えたら、「会計ができる」って思い当たったの。それで会計士として働けるかなという気持ちになったので、会計士の試験を受けたんですよ。その後、ニューヨークの国際会計事務所就職が決まりました。そこでは会計士として約4年勤めていたのですが、その時、日本ジュース・ターミナルに誘われたの。「日本にこういう企業を作るからお金もいっぱい借りないといけないし、ローンも組まないといけない。だからお金を計算する専門の人間がいた方がいい」ということで、入社することが決まったわけ。アメリカのニュージャージー州にも日本と同じようなターミナルがあったので、まずそこに見学に行ったの。広い冷蔵庫の中に巨大なタンクが22基あったかな？タンクの高さが20mで1500tもある。そういうのを見て「うわー！」って。それまでは電卓を叩いて帳簿つけばかりやっていたじゃない？

学生 (笑)

石川学長 「うわーすごい！」と思って、それで入社したの。あと、新しい会社というのも面白そうだったのね。

学生 自分で会社を作っていける、ということですか？

石川学長 そうそうそう。なんだかすごく楽しかった。日本ジュース・ターミナルに入った時は業務部長だったのですが、英語力や会計の知識が強みだったの。それでも女性が社長というのはなかなか難しい。まわりの人は、社長の後継を指名するときに私なんて全然考えていなかったの。だって女性だし、日本での経験もそれほどないし。それでも、海外の株主が「次の社長は石川百代だ、やれ！」と言ったんです。日本人は、女性が社長という「えー、本当になれるのか？」という抵抗があるんですよ。けれど、私は以前会計士としても働いていたし、日本ジュース・ターミナルでも社員として8年間働いていたし、会社を作る時に銀行から借りた40億のローンも着実に返していった。それを海外の人間は認めてくださったの。「石川に任せれば、お金の面できっちりやってくれる。しかも奴は会計士だ」ということで認めてくれて、社長になったの。だから、社長になることも順調ではなかったの。それでも、ありがたく引き受けましたけどね。

職員 素晴らしい。

石川学長 日本ではなかなかないですよ。海外の人は日本の人達よりオープンですね。男女差なく、でも、社長として14年間いたのはちょっと長かったなって反省しています。

学生 社長業って長くやってはいけないんですか？

石川学長 いや、学長もそうですが、何でもかんでも14年やると……。

学生 (笑)新鮮さが。

石川学長 そう！新鮮さが必要よ。14年は長すぎた。ちょうど株主が世代交代したので、それで私も代わり時かなと感じて、社長を退任したの。



2杯に1杯は日本ジュース・ターミナルのオレンジジュースでできている!?

石川学長 日本ジュース・ターミナルに来たことないでしょ? 皆さんを連れて行ってあげたいくらい。そこにはものすごく大きなタンクがあって、色々なところから見学者が押し寄せて来るの。日本ジュース・ターミナルのオレンジジュースは、「ミニッツメイド」や「オレンジーナ」などの中に入っているんですよ。

学生 へー。

石川学長 どのメーカーも原料は同じで、キリン、サントリー、コココーラ、グリコなど、多くのメーカーが日本ジュース・ターミナルのジュースを使っているの。だから、ジュースも「甘め」「スタンダード」「少し酸っぱめ」のように3つ4つくらい規格があるんですよ。例えば、グリコは子供向けのオレンジジュースを作っているのだから甘めなんです。果実が完熟の時にジュースにすると甘いものが搾れる。あと、果実の産地によっても違う。だって、愛媛産のミカンは甘いじゃない?

学生 甘いです。

石川学長 ね。ところが、神奈川県産のミカンは少し酸っぱいので、缶詰のミカンに向いていますね。やっぱり土地によっても味が違うし、早生のミカンもある。

学生 そのメーカーさんによって分けて作るんですか?

石川学長 そうではないですね。例えば、グリコ用だと甘めのジュースのロット(1つが1000tタンク)がブラジルからタンカーで運ばれてくるの。ブラジルとアメリカに工場があったんですね。12,000~16,000tもある大きなタンカーで、それが日本ジュース・ターミナルに入港するの。それから、濃縮オレンジジュースは地下パイプラインを通して、タンカーからタンクに移送される。タンクの大きさは直径9m・高さ16mでステンレス製の1000tタンク、これが20基あって、タンクファーム(貯蔵タンク)という建物に入っているの。そこは建物自体が全部冷蔵庫で、中は-10℃なの。ブレンドするための小さい100tのタンクもある。私が社長の時、タンクファームを見学者に紹介すると、みんな「わー!」と言って結構喜んでいましたね。

学生 想像がつかないですね。16mのタンクが20基も…。

石川学長 日本のオレンジジュースの総需要の50~60%くらいを日本ジュース・ターミナルが賅っていたの。

学生 すごい!

石川学長 日本で飲まれているオレンジジュースの2杯に1杯は、日本ジュース・ターミナルからきているんですよ。

学生 自分の会社のジュースを飲むことはあるんですか?

石川学長 そうよ。サンプルがいっぱい出るから毎日飲みます。品質管理の為にサンプルを取るわけ。ブレンドした時も、どれくらいの割合でブレンドされているか確認するためにサンプルを取る。するとたくさんサンプルが出るの。それを1つ貰って、それをお水で薄めて飲んでいましたね。



学生 オレンジジュースのオススメの飲み方ってありますか?

石川学長 そうねー、あんまりないけどね。

学生 (笑) 冷やして飲む感じですか?

石川学長 あまり冷やさない方が美味しいですね。何でも冷やし過ぎは良くない。あと、氷は入れない方がいい。日本だと、例えばファーストフード店で氷を入れるでしょ。氷なしの方がオレンジジュースの良さがでる。

学生 おいしそうですね。今度試してみます。

石川学長 いずれにせよ、会社立ち上げから関わったことがとてもよかった。ここまで面白い会社は日本にはないと思う。豊橋に行く機会があったら、ぜひ見学してみたいですね。

嘉悦生へのメッセージ

学生 最後に、嘉悦生へひとことお願いします。

石川学長 嘉悦は少人数で教育をやっているのが特徴的だと思うんですよ。だから、もっと先生との関係を密にして、「先生からいろんなことを学ぼう」と意欲的に行動してほしいなって思います。だって、やる気のある先生がいっぱいいますもんね。

学生 その通りですね。先生方から学んでいきたいとします。本日はお忙しい所時間を作っていただき、ありがとうございました。

インタビューを終えて

会社設立時に40億のローンを組んで、それを着実に返していったことから、学長の会計士としての凄さがうかがえました。社長就任も納得ですね。実際に嘉悦での勉強が将来とても役に立ったという話を聞くと「やっぱり勉強って無駄ではないんだな。頑張って勉強しなきゃ!」という気持ちになります。午前は遊んで午後は勉強、という勉強に対するストイックさも見習っていかなければなりませんね。【小島】

発行日:2016年11月1日

発行:嘉悦大学情報メディアセンター Liss(図書館学生スタッフ)